

令和5年度 事業報告書

I 事業の状況

1 事業の実施状況

小児の医療・保健及び福祉の向上に寄与することを目的として、令和5年度も引き続き、設立来の重点事業である「小児の健康並びに疾病の成因、診断、治療及び予防に関する研究助成」と若手の小児科医や小児医学研究者育成のための「海外留学フェローシップ事業」の推進、加えて臨床研究を対象として社会医学的研究（疫学・統計含む）の支援も行った。また「小児医学・医療・保健に関する優れた研究論文に対する褒賞事業」等に加え、広報啓発活動としてオンラインによる「市民公開講座」を開催するなど、小児の保健と福祉の向上に努めた。

(1) 研究助成事業

① 小児医学領域全般に関する研究助成金

過去3年間において当財団の研究助成金を受けていない者で、次の条件に該当する者を対象とした。

- ・ 日本国籍を有する者、あるいは永住権・定住権を有する小児科の基礎的研究、臨床研究等に従事する令和5年12月31日時点で50歳未満の医師・研究者
- ・ 若手の小児科医師及び小児医学研究者を優先することから原則として教授及び研究機関等の部長級以上の者を除く

当財団の選考委員会で審議し、理事会の承認を経て交付対象者を決定した（交付対象者は、6頁記載のとおり）。令和5年度の応募者は52名、交付対象者は5名で採択率は9%であった。

② 妊産婦・乳幼児・小児の栄養に関する研究助成金

過去3年間において当財団の研究助成金を受けていない者で、次の条件に該当する者を対象とした。

- ・ 日本国籍を有する者、あるいは永住権・定住権を有する小児科医師及び小児栄養に関する研究者で、令和5年12月31日時点で50歳未満の者
- ・ 若手の小児科医及び小児栄養研究者を優先することから原則として教授及び研究機関等の部長級以上の者を除く

当財団の選考委員会で選考し、理事会の承認を経て交付対象者を決定した（交付対象者は、6頁記載のとおり）。令和5年度に応募者は4名、交付対

象者は2名で採択率は50%であった。

③ 小児の社会医学的研究（疫学・統計含む）に関する助成金

過去3年間において当財団の研究助成金を受けていない者で、次に該当する者を対象とした。

- ・ 日本国籍を有する者、あるいは永住権・定住権を有する小児医療・保健、周産期医療・保健に関する臨床・疫学研究に従事する令和5年12月31日時点で50歳未満の者
- ・ 若手の小児科医を優先することから原則として教授及び研究機関等の部長級以上の者を除く

当財団の選考委員会で選考し、理事会の承認を経て交付対象者を決定した（交付対象者は、6頁記載のとおり）。令和5年度の応募者は13名、交付対象者は5名で採択率は38%であった。

(2) 海外における研究に対する助成(海外留学フェローシップ)

① 小児科領域全般に関する基礎的研究や臨床研究

海外の研究機関等において、標記の研究に一定期間（原則1年以内）従事する40歳未満（令和5年12月31日現在）の日本国籍を有する者、あるいは永住権・定住権を有する小児科医・小児医学研究者を対象とした。当財団の選考委員会で選考し、理事会の承認を経て交付対象者を決定した（交付対象者は、6頁記載のとおり）。令和5年度の応募者は12名、交付対象者は3名で採択率は25%であった。

② 子どもの心の問題に関する基礎的研究や臨床的研究

国内外の研究機関等において、標記の研究に従事する40歳未満（令和5年12月31日現在）の日本国籍を有する者、あるいは永住権・定住権を有する小児科医・小児医学研究者を対象とし募集したが、令和5年度の実績者はなかった。

(3) 優秀研究論文褒賞(優秀論文アワード)

下記の和文誌及び欧文誌に令和5年1月号から令和5年12月号に掲載された論文の原著著者で令和5年12月31日時点で40歳未満の小児科医師・研究者を対象とした。

論文掲載誌の発行学会からの推薦を受け、当財団の選考委員会で選考し、理事会の承認を経て4名の受賞者を決定した(受賞者は7頁記載のとおり)。

ア 対象研究論文

(ア) 小児医学領域全般に関する研究論文

- (イ) 小児精神疾患および子どもの心に関する研究論文(福山・加我アワード)
 - イ 論文掲載誌(和文誌、欧文誌)
- (ア) 日本小児科学会機関誌である「日本小児科学会雑誌」(和文誌)および「Pediatrics International」(英文誌)から各1名
- (イ) 日本小児神経学会機関誌「脳と発達」あるいは「Brain & Development」から1名
日本小児精神神経学会機関誌「小児の精神と神経」あるいは日本小児心身医学会機関誌「子どもの心とからだ」から1名

(4) 研究助成成果発表及び授賞事業

第126回日本小児科学会学術集会開催期間中に、令和3年度研究助成金受賞者14名による研究成果のポスター発表をWeb配信で行い、加えて財団のホームページ上に令和5年6月より7月まで公開した。

(5) 広報活動事業

① 市民公開講座のWeb開催

「(SNS)の功罪ー子どもの健やかな成長と発達のためにー」をテーマに市民公開講座を、財団ホームページ上で無料動画配信にて行った(8頁のプログラムの通り)。

- ・配信期間：令和5年10月1日～令和6年3月31日
- ・アクセス総数：17,213件(参考：前年度132,686件)

② ニュースレター(子どもたちの世紀)の発行

第29号(令和5年4月1日号)

第30号(令和5年11月1日号)

II 会議等の開催状況

1 理事会

○令和5年6月5日(月)オンライン開催

議決事項

第1号議案「令和4年度事業報告書(案)」について

第2号議案「令和4年度財務諸表(案)」について

第3号議案「令和5年度定時評議員会の開催」について

第4号議案「役員を選任決議および評議員の選任決議」について

審議結果

出席理事8名全員の賛成により可決、承認。

報告事項

1. 賛助会員数の推移について
2. 評議員および選考委員の増員について

○令和5年9月8日（月）オンライン開催（臨時）

議決事項

議案「基本財産1億円の途中償還に伴う代替金融商品の買付け」について

審議結果

出席理事5名全員の賛成により可決、承認。

○令和6年3月14日（木）オンライン開催

議決事項

第1号議案「令和6年度事業計画書（案）」について

第2号議案「令和6年度収支予算書（案）」について

第3号議案「令和5年度研究助成金等の選考結果」について

審議結果

出席理事8名全員の賛成により可決、承認。

報告事項

(1)「理事長及び常務理事の職務執行状況」について

(2)「日本小児科学会よりの寄付金1000万円」について

2 評議員会

○令和5年6月28日（水）オンライン開催

決議事項

第1号議案「令和4年度事業報告書（案）」について

第2号議案「令和4年度財務諸表（案）」について

第3号議案「役員を選任決議」

第4号議案「評議員を選任決議」

第5号議案「評議員増員を選任決議」

審議結果

参加評議員5名全員の賛成により可決、承認。

報告事項

1.「令和5年度事業計画書および令和5年度収支予算書」について

2.「研究助成金の外国人応募資格」について

3 企画運営委員会

○令和5年6月1日（木）オンライン審議

会議内容

① 令和4年度事業報告書（案）について

② 令和4年度財務諸表（案）について

③ 令和4年度研究助成金等の結果報告

④ 令和4年度選考委員会でのご意見について

⑤ 理事・監事・評議員の改選について

⑥ 加我牧子先生からの追加ご寄付の使途について

○令和6年2月8日(水) オンライン開催

会議内容

- ① 令和5年度選考委員会報告について
- ② 同選考委員会でのご意見について
- ③ 日本小児科学会よりの寄付金について

4 選考委員会

○令和6年2月5日(月) オンライン開催

- ① 令和5年度研究助成金交付対象者の選考
- ② 令和5年度海外留学フェローシップ受賞者の選考
- ③ 令和5年度優秀論文アワード受賞者の選考

Ⅲ その他

1 寄付金の受入れ

法人 8法人

(公社) 日本小児科学会、アサヒグループ食品(株)、中外製薬(株)、日本マクドナルド(株)、JCRファーマ(株)、ノボノルディスクファーマ(株)、(株)オグラ、日本小児医療政策研究センター(理事長: 衛藤義勝)

個人 1名

村上まゆみ

2 賛助会員(令和6年3月31日現在)

法人会員 6法人

アサヒグループ食品(株)、(医社)メディカル・プロ、エーザイ(株)、第一三共(株)、(株)ナチュラルサイエンス、Meiji Seika ファルマ(株)

個人会員 329名、市民公開講座等個人会員 15名

以上

令和5年度助成金交付対象者一覧表

1. 小児医学領域全般研究助成金

	名 前	所 属	役職	課題名
23-001	黒田 康勝	東北大学大学院医学系研究科 細胞組織学分野	助教	多能性幹細胞(Muse細胞) 投与によるダウン症候群に対する 新規 治療法の開発
23-002	松下 祐樹	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科細胞生物学分野	准教授	シングルセル空間解析と細胞運命解析を応用した軟骨無形成症の病態解明と治療戦略の構築
23-003	斎藤 良彦	国立精神・神経医療研究センター神経研究所 疾病研究第一部	研究員	<i>in silico</i> 予測ツールによる遺伝性筋疾患病的スプライシング変異同定の実用化を目指した研究
23-004	村上 真理	大阪大学大学院医学系研究科 免疫制御学	助教	腸内微生物による宿主感染制御機構の解明
23-005	白井 陽子	東京女子医科大学腎臓小児科	助教	巣状分節性糸球体硬化症の抗nephrin抗体による蛋白尿発症機序の解析

2. 妊産婦・乳幼児・小児の栄養に関する研究助成金

	名 前	所 属	役職	課題名
23-006	赤川 翔平	関西医科大学小児科学講座	講師	水溶性食物繊維（イヌリン）を用いた小児の腸内細菌叢改善戦略の開発
23-007	冠城 祥子	慶應義塾大学医学部小児科学教室	助教 (育児支援)	『離乳食の開始時期とその規定因子に関するビッグデータ解析』

3. 小児の社会医学的研究（疫学・統計含む）助成金

	名 前	所 属	役職	課題名
23-009	古市 宗弘	慶應義塾大学医学部小児科	助教	大規模リアルワールドデータを用いた予防接種副反応の研究
23-010	越智 真奈美	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 政策科学研究部 政策開発研究室	室長	院内虐待対応組織（Child Protection Team: CPT）の地域連携機能強化に向けたアセスメントに関する研究
23-011	藤原 岳	京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系 専攻 知的財産経営学分野	専門職 学位課程 大学院生	「親の急性脳損傷が子供に与える精神的影響：大規模保険者データベースを用いた曝露クロスオーバー研究」
23-012	平間 崇	東北大学病院・呼吸器外科	助教	日本における小児の肺移植
23-013	倉川 佳世	国立障害者リハビリテーションセンター病院 小児科・児童精神科	消化器 内科医長	リアルワールドデータを用いた、知的障害を伴う自閉スペクトラム症児の身体科診療に関する疫学研究

研究を目的とした留学に対する助成（留学フェローシップ）

小児医学領域全般に関する海外留学奨学金

	名 前	所 属	役職	課題名
F23-001	山田茉未子	慶應義塾大学医学部臨床遺伝学センター	専任講師	トランスクリプトーム解析とメチローム解析の複合による遺伝性疾患の診断率向上と新規疾患の同定
F23-002	大西 峻	鹿児島大学病院小児診療センター小児外科	助教	Scaffoldと細胞シートによる構造と機能を備えた食道閉鎖症治療の新規開発
F23-003	伊藤 尚弘	福井大学医学部附属病院 総合周産期母子医療センター	特命助教	アレルギー疾患における抗原特異的IgDの役割の検討

令和5年度優秀論文アワード
＜1件30万円×4名：合計120万円＞

- ① 小児医学研究振興財団アワード和文誌（公益社団法人日本小児科学会雑誌）
松内祥子 済生会山形済生病院小児科
非侵襲的ヘモグロビン測定による2歳未満児の貧血スクリーニング
日本小児科学会雑誌 127 巻(2023年) 3号 435~440 原著
- ② 小児医学研究振興財団アワード欧文誌（Pediatrics International）
一瀬真美 都立小児総合医療センター 腎臓・リウマチ膠原病科
Clinical application of a lung sound analysis in infants with respiratory syncytial virus acute bronchiolitis
Pediatrics International 65 巻（2023年）e15605
- ③ 福山・加我アワード（一般社団法人日本小児神経学会 機関誌）
山瀬聡一 日本大学医学部小児科学系小児科学分野
Soichi Yamase, Wakako Ishii, Nobuhiko Nagano, Aya Okahashi, Kimiko Deguchi, Emiko Momoki, Ichiro Morioka
The gaze characteristics in preterm children: The appropriate timing for an eye-tracking tool
Brain Dev 2023 ; 45 : 571-578
- ④ 福山・加我アワード（一般社団法人日本小児心身医学会 機関誌）
澤口智子 大垣市民病院小児科
小児科における心理士の役割—地域支援病院小児科にて心理的支援を行った57症例の検討から—
澤口智子, 藤井秀比古
子どもの心とからだ [JJSPP] 2023, 32 (1) : 21-27

以上

SNSと子どもの健康

公開期間:令和5年9月頃～令和6年3月末まで



座長



「SNSと子どもの健康」を考えよう

社会福祉法人子どもの虐待防止センター理事
座長 奥山 真紀子 (おくやま まきこ)

講演
1



子どもとSNSとの関わり方

国立成育医療研究センター 広報企画室
村上 幸司 (むらかみ こうじ)

講演
2



子どもたちの健やかな脳発達のために ～ 脳発達とデジタルメディアの影響 ～

東北大学スマート・エイジング学際重点研究センター センター長
東北大学加齢医学研究所 教授 瀧 靖之 (たき やすゆき)

講演
3



SNSと成長

国立成育医療研究センター 社会医学研究部 石塚 一枝 (いしづか かずえ)

講演
4



大人も子どもも“デジタル・シティズンシップ”を身につけよう! ～ 子どもの健やかな発達・成長と未来のために ～

ネット教育アナリスト 尾花 紀子 (おばな のりこ)

web市民公開講座は <http://www.jfpedres.or.jp/2023.html>



無料



- 主 催：(公財)小児医学研究振興財団
- 後援：厚生労働省、(公社)日本小児科学会、日本製薬団体連合会、(公社)日本医師会、(公社)日本小児科医会、(公社)日本小児保健協会、(公社)こども環境学会、(公社)日本新生児成育医学会、(一社)小児精神神経学会、(一社)日本外来小児科学会、(一社)日本学校保健学会、(一社)日本子ども虐待防止学会、(一社)日本小児アレルギー学会、(一社)日本小児感染症学会、(一社)日本小児救急医学会、(一社)日本小児神経学会、(一社)日本小児心身医学会、(一社)日本保育保健協議会、(公財)日本学校保健会、(公財)母子衛生研究会、(社福)日本保育協会
- 協賛：日本マクドナルド(株)、(株)オグラ
- 特別寄付者：松井 陽



公益財団法人小児医学研究振興財団
JAPAN FOUNDATION FOR PEDIATRIC RESEARCH

〒110-0015 東京都台東区東上野3-32-2 廣瀬ビル4B
Tel:03-5818-2601 FAX:03-5818-2602
e-mail:web@jfpedres.or.jp



(留学先トロント小児病院 吉年俊文先生撮影)

令和4年度 研究助成金交付対象者 選考結果一覧表

令和4年度 海外留学フェローシップ・ 優秀論文アワード 選考結果

特別寄稿 第127回日本小児科学会学術集会会頭に就任して



九州大学大学院医学研究院
成長発達医学分野 (小児科)
第127回日本小児科学会学術集会会頭

大賀 正一

~ Bright futures to your birth! ~

君の誕生に輝かしい未来を!

2024年、第127回日本小児科学会学術集会の会頭を仰せつかりました九州大学成長発達医学の大賀正一です。九州・沖縄ブロックでは6年ぶり、九州大学としては約20年ぶりの担当です。同年は教室開講120周年にあたり、大変名誉なことでございます。

COVID-19はこどもたちの環境を激変させました。出生数減少は加速し、保育や学校教育、職場環境の変化から多くの課題に直面しました。戦争と災害も世界中の人々の暮らしに影響しています。私たちは正確な情報とワクチンの重要性を実感し「小児科学の原点とは「感染と遺伝」の間で成長と発達をとげるこどもたちを守ることであり」と再認識しました。この3年間、からだの距離 (social distance) をon-lineでカバーし、こころの距離を最適化する方法も整ってきました。同時に、ゲノム医療、免疫細胞療法、遺伝子治療が実装され、分子標的療法も進歩し、新生児スクリーニング、出生前診断や生殖医療が拡大しています。

こどもたちの誕生に輝かしい未来を約束する医学を実現することが私たちの使命です。人類に刻まれる進化の歴史を意識しながら、こどもたちのadvocatorとしての学術活動が期待されています。「生命 (いのち) を育む」という命題を、小児医学と医療から国際的に考え、

on-lineとon-siteを駆使して国内外の演者と議論を深めたいと思います。学会場は海に近い福岡市の中心地です。コロナ禍を経験した私たちが、大陸を望む博多湾から世界を見渡して、「その子の誕生の輝かしい未来への思い」を共有する機会になれば幸いです。

会期は2024年4月19日 (金) から21日 (日) の3日間、会場はヒルトン福岡シーホークです。ポスターにこどもたち一人一人の願いを込めました。こころを繋ぐハイブリッド開催で、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

令和5年度 web市民公開講座

Social Networking Service

SNSと 子どもの 健康

財団HPにて
公開中!



特別寄稿

「お子様と、視線を合わせて、寄り添って」



東京女子医科大学名誉教授
学校法人立教女学院理事長

大澤 真木子

公益財団法人小児医学研究振興財団では令和5年度の広報啓発事業として「Social Networking Service (SNS)の功罪-子どもの健やかな成長:発達のために-」をテーマに市民公開講座を企画致しました。コロナ禍で、「子ども達の学びを止めないために」やむなくWeb授業も行われ、保護者の方のお仕事もWeb会議が取り入れられるなど、デジタル化の波が加速しました。教育現場で、プログラミングの授業が小学校で2020年度から、中学校で2021年度から、高校では2022年度から開始され、一人一台の学習用端末が児童・生徒達に配布され、また、大学入試共通テストに「情報」が2025年度から加わるようになりました。これからの時代、SNSとの関係は、ますます強くなって行きます。

一方、愛着形成が必要な時期に、授乳しながらスマホを閲覧になり、お子様と視線を合わせておられない保護者の方もお見かけします。こどもに目を向けると、デジタル社会にあって、SNS依存、ゲーム依存により、不登校に陥っている小児もいます。こどもの学びは、「まねる」事から始まりますので、保護者の方が、SNSに興じる姿を幼少期のおこさんに余り見せないことが大切です。睡眠不足や、脳の発達障害を起こし難くするためにも、ゲームに興じる時間を区切ることが、重要です。

そのためにも、我慢することが難しい成長期のこども達には、あらかじめ、SNSの興味を持つ前に、十分な愛着形成、運動や外遊びの楽しさを実感してもらい、家族と一緒に食事をするたのしさを先に、感じる事が大切です。

周囲の保護者の方が、インターネット空間が子どもたちに与える恩恵や弊害について、十分理解し、おこさんが18歳になる迄に、デジタルリテラシーを獲得できるように、おこさんと共に、方策を立てて成長に導いて頂けたら幸いです。!!

公益財団法人小児医学研究振興財団役員・評議員名簿（令和6年6月20日現在）

役員名	氏名	ご所属
理事長	高橋 孝雄	新百合ヶ丘総合病院 発達神経学センター長・名誉院長
常務理事	五十嵐 隆	国立成育医療研究センター理事長
常務理事	奥山真紀子	社会福祉法人子どもの虐待防止センター理事
理事	江井 俊秀	公益財団法人母子衛生研究会理事長
理事	衛藤 義勝	東京慈恵会医科大学名誉教授
理事	大澤真木子	東京女子医科大学名誉教授・立教女学院理事長
理事	清野 佳紀	JCHO大阪病院名誉院長
理事	原 寿郎	令和健康科学大学副学長
理事	宮島 俊彦	日本製薬団体連合会理事長
監事	濱本 英輔	元国税庁長官
監事	松尾 宣武	国立成育医療研究センター名誉総長

評議員名	氏名	ご所属
評議員長	別所 文雄	元日本医療科学大学保健医療学部教授
評議員	赤坂真奈美	岩手医科大学小児科学講座教授
評議員	有賀 正	社会医療法人母恋理事長
評議員	大賀 正一	九州大学医学研究院成長発達医学分野教授
評議員	岡 明	埼玉県立小児医療センター病院長
評議員	児玉 浩子	帝京平成大学栄養・発育研究講座特任教授
評議員	滝田 順子	京都大学大学院医学研究科小児科教授
評議員	森尾 友宏	東京医科歯科大学執行役・副学長（国際交流担当）
評議員	山岸 敬幸	東京都立小児総合医療センター院長

監事監査報告書

令和6年5月31日

公益財団法人小児医学研究振興財団

理事長 高橋 孝雄 殿

公益財団法人小児医学研究振興財団

監事 松尾 宣武 

監事 斎藤 幸雄 

私たち監事は、公益財団法人小児医学研究振興財団定款第32条第1項第1号及び2号の規定に基づき、公益財団法人小児医学研究振興財団（以下「財団」という。）の令和5年度（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）の理事の職務執行状況及び財団の業務及び財産の状況について監査いたしました。

その結果につき、次の通り報告いたします。

1. 監査の方法の概要

私たちは、理事会に出席する他、理事長等から業務実績の報告を聴取し、重要な決済書類を閲覧して財団における業務及び財産の状況を監査いたしました。

2. 監査の結果

- (1) 事業報告書は、財団の事業実施内容を適切に示していると認めます。
- (2) 会計帳簿は、記載すべき事項は正しく記載され、財務諸表の記載と合致しているものと認めます。
- (3) 財務諸表は、関係諸法令に従い、財団の財産及び損益の状況を正しく示しているものと認めます。
- (4) 財団の業務及び財産に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- (5) 役職員の職務執行に関し、不正の行為又は関係諸法令に違反する重大な事実は認められません。

以上